

異文化理解を促進する教育の為の e ラーニングシステムの運用

E-Learning System Operation to the Education for Promotion Cross-Cultural Understanding

上出 祐美加^{*1}, 加藤 優子^{*2}, 諏訪 いずみ^{*1}, 久保 長徳^{*1},

黒岩 文介^{*1}, 小高 知宏^{*1}, 白井 直彦^{*3}, 籠谷 隆弘^{*4}

Yumika KAMIDE^{*1}, Yuko KATOU^{*2}, Izumi SUWA^{*1}, Takenori KUBO^{*1},

Jousuke KUROIWA^{*1}, Haruhiko SHIRAI^{*3}, Tomohiro ODAKA^{*1}, Takahiro KAGOYA^{*4}

^{*1} 福井大学大学院工学研究科

^{*1} Graduate School of Engineering, Fukui University

^{*2} 仁愛大学人間学部

^{*2} Faculty of Human Studies, Jin-ai University

^{*3} 福井大学工学部

^{*3} Department of Engineering, Fukui University

^{*4} 仁愛大学人間生活学部

^{*4} Faculty of Human Life, Jin-ai University

Email: kamide@i.u-fukui.ac.jp

あらまし: 本発表では、異文化理解教育の為に作成した e ラーニングシステムの紹介と、運用実験とその結果を報告する。我々は、異文化理解を目的とした授業を支援する為に、異文化理解の一つの手法である異文化トレーニングを e ラーニングとして行うシステムを開発してきた。実装したシステムを共同研究者の 1 人の大学の講義で実際に利用している。そこで、本発表では、実際に運用するまでの問題点・運用後に明らかになった問題点、及びその効果などについての発表を行う。

キーワード: e ラーニング, 異文化理解教育, 授業支援システム

1. はじめに

多文化共生教育や国際理解教育などの異文化理解を目的とした授業では、異文化トレーニング⁽¹⁾という演習が教育手法の一つとしてしばしば用いられる。しかし、このトレーニングを授業で行うには、専門知識を持った人材不足や時間制限の問題、またそれに伴う実践報告の少なさなどの問題点が挙げられている⁽²⁾。

そこで我々は、異文化トレーニングを e ラーニングシステムとして実装して、授業時間外に学生に演習を提供することによって、上記の問題のうち、時間制限の問題を解決することができると考え、システムの設計と実装を行ってきた⁽³⁾。

2. 異文化トレーニングについて

異文化トレーニングは、異なる文化環境下でのコミュニケーション能力や、目的達成能力の習得を目的としているもので、その手法としては「文化」についての学習を中心に、知識面や情緒面、行動面での様々な演習を行う。

異文化トレーニングを高等学校の授業などで行う際の問題点の一つである時間制限の問題とは、異文化トレーニングを行う為の座学にほとんどの時間を取られてしまい、授業全体を通して学生に行うことができる異文化トレーニングの演習には限りがある事である。

3. 異文化理解の為の e ラーニングシステム

3.1 異文化理解の為の e ラーニングシステム概要

本システムは、異文化トレーニングの時間制限の問題を解決するために、異文化トレーニングを e ラーニングで行う為のものである。

本システムは異文化理解を目的として異文化トレーニングを学生に実施する高等教育の授業を対象として作成した。授業時間外に学習者に異文化トレーニングを提供することによって、講義全体を通して学習者に実施する異文化トレーニングの演習数を増やす事ができる。またそのことによって、授業においては、座学や行動面や学生同士の対面式トレーニングなどに専念することができる。

実装する異文化トレーニングは、共同研究者異文化教育の専門家である共同研究者の 1 人が本システムに掲載する為に作成したオリジナルの演習問題である。トレーニング内容は、常識、価値観、ステレオタイプ、偏見、自文化中心主義、文化についてで、全部で 7 つのステップに分かれている。演習はアンケート形式で、問題文、回答方法、及び解説が容易されている。

3.2 異文化理解の為の実装機能

我々は、これらの演習問題を web 上で行うシステムに加え、異文化理解を促進させる為の機能として様々な機能の設計を行った。今回の実験で使用する機能は以下の通りである。

【回答閲覧機能】異文化理解の第一歩である、価値観や常識の多様性への気づきを促す為に、学生が行った演習の他人の回答を閲覧する事ができる機能。

【掲示板】より異文化理解を深める為に、価値観や常識の違いについての意見交換を行う為の機能。授業でのディスカッションとは違い、制限時間を気にせず発言ができ、また参加者全員の意見（価値観）を閲覧する事ができる。

【チャット機能】掲示板以外の場所でも思った事を書き込みや他人の意見の閲覧ができるスペースを提供する事によって、ユーザー同士の意見交換を促進。ユーザーにより多くの意見に触れる機会を提供する。

【解説のアニメーション】演習問題を作成した共同研究者に対話形式の解説文を作成してもらい、それを元にアニメーションを作成、内容を映像化する事によって、内容を直観的に理解しやすくした。

本システムで学生が行うトレーニングの一連の流れは、以下ようになる。

1. システムにログイン
2. チャット機能で意見交換をしながら、演習問題へ回答
3. アニメーションまたは文章での解説の閲覧
4. 他人の回答の閲覧
5. 掲示板でのディスカッション

本システムは、web サーバーに apache2.2, システム部分やインターフェースは PHP, html, CSS, データベースに MySQL, アニメーションを Flash で作成した。各機能は図1のようにシステムに組み込まれている。

4. e ラーニングシステムの運用

仁愛大学で2012年4月～8月の間に行われる異文化理解を目的とした授業「異文化理解」にて、本システムを運用している。この講義は仁愛大学人間学部コミュニケーション学科の1～4年生の学生を対象にした授業で、全15回（+最終試験1回）行われる。今年度の受講者は60名である。1回のみ、授業時間内に本システムの使用方法を説明し、以降は授業時間外に自習として学内や学外で使用してもらう。

4.1 ユーザー認証方法の変更

本実験を行うにあたり、仁愛大学学内にシステムを

運用する為のサーバーを作成した。その際、ユーザー情報などの登録に仁愛大学の授業管理システムを利用する為に、本システムのユーザー認証機能の変更を行った。従来は、ユーザー名とパスワードによるユーザーの認証を行っていた。その為、管理者ページでユーザー情報やパスワードを新たに登録し、ユーザーアカウント作成する必要がある。しかし、当大学の授業管理システムでのユーザー認証データを本システムへ渡すことにより、ユーザー登録やシステムのログインを簡単に行うことが可能になった。授業管理システムから受け取った学籍番号などのユーザー情報を、本システムのデータベースと照らし合わせ、該当するデータがあればログイン、無ければユーザーの新規登録を行う。授業管理システムを通すことによって、本システムにアクセスできるのは大学に籍を置くユーザーのみであり、セキュリティ面でも安全である。これにより、学生は当大学の授業管理システムへログインし、該当授業にアクセスするだけで、本システムへのログインを行う事が可能になった。

4.2 動作環境に合わせたプログラムの変更

本システムの開発はLinuxOS 上で行い、システムの動作確認の web ブラウザには Icedweasel のみを使用していた。しかし、本システムを使用する仁愛大学の授業では、Windows7OS のパソコンで web ブラウザには Internet Explorer9 が使用されている。その為、仁愛大学側から本システムの動作確認をした際、文字化けや、エラー、レイアウト崩れなどが起きてしまった。その為、IE9 に合わせてプログラムやレイアウトの記述を書き直す必要があった。

5. まとめ

異文化理解の授業において、異文化トレーニング使用の際の時間制限の問題を解決するべく、我々は異文化トレーニングを e ラーニングとして行う為のシステムを開発してきた。今回そのシステムを、実際の使用環境での運用を試みた。対象大学内にサーバーを立て、異文化理解を目的とした授業において、学生の授業時間外課題として本システムの運用を行っている。その運用結果については発表にて報告する予定である。

参考文献

- (1) 八代京子, 町理恵子, 小池浩子, 磯貝友子: “異文化トレーニング - ボーダレス社会を生きる -”, 三修社 (2001)
- (2) 加藤優子: “異文化間能力を育む異文化とトレーニングの研究: 高等教育における異文化トレーニング実践の問題と解決に関する一考察”, 仁愛大学紀要人間学部篇, 8, 12-21 (2009)
- (3) 加藤優子, 小倉久和, 黒岩丈介, 諏訪いづみ, 上出祐美加: “異文化トレーニング教育支援システムの開発と実践”, 中部人間学会, 人間学研究 第9号, (2010-12-30)

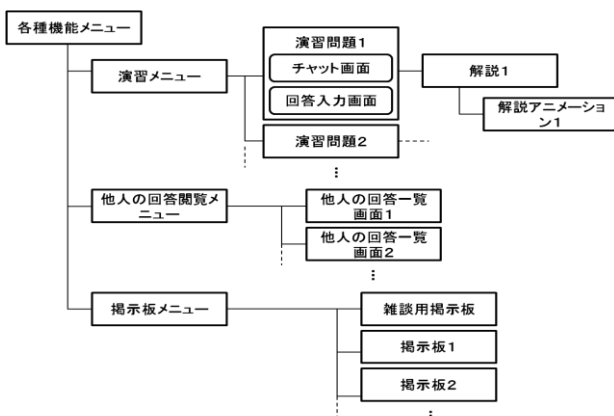


図1 システムの画面遷移図